

## 「ひまわり6号」から「ひまわり7号」への気象ミッション運用の切り替え予定について

平成 21 年 7 月 30 日

気象庁は、「ひまわり6号(MTSAT-1R)」による観測(気象ミッション)を平成 17 年 6 月 28 日から行って来ましたが、平成 22 年の夏に気象観測機能が設計寿命の5年を迎えます。このため、気象ミッションの運用を「ひまわり7号(MTSAT-2)」へ切り替えることを予定しています。なお、切り替え後の運用形態等については、基本的には下記のように予定していますのでお知らせします。

### 1. 切り替え時期

平成 22 年 7 月 1 日(木)を予定しています。なお確定日及び時刻は決まり次第お知らせします。

### 2. 観測ミッションの運用形態

切り替え後は、現在の「ひまわり6号」及び「ひまわり7号」の静止位置(それぞれ赤道東経 140 度と東経 145 度)はそのままに、「ひまわり7号」が観測(撮像)を行います。したがって切り替え後は、東経 145 度から観測が行われます。

### 3. 観測性能

「ひまわり7号」は、「ひまわり6号」と同様に1つの可視チャンネルと4つの赤外チャンネルで観測を行います。これらチャンネルのスペクトル応答特性もほぼ同等で、観測で得られる画像の解像度及び階調分解能も同じです。

### 4. 観測スケジュール

切り替え後も、全球観測と半球観測を繰り返す現在の観測スケジュールを継続します。なお、イメージャ機能の違いにより観測終了時刻については全球観測で3分程度遅くなります。

### 5. 配信データ

切り替え後も、現在と同様の画像データ及びプロダクトデータが配信されます。なお、HRIT形式のデータについては、画像の中心が「ひまわり7号」が位置する東経 145 度に変更されます。切り替え後「ひまわり7号」の障害時等には、「ひまわり6号」による

代替運用を行いますが、このときHRIT形式のデータの画像中心は再び東経140度に戻ります。

## 6. その他

通報局データの衛星中継業務については、継続して「ひまわり6号」が行います。なお、「ひまわり6号」から「ひまわり7号」への気象ミッションの切り替えが、航空ミッションの運用に与える影響はありません。

本件に関する問い合わせ先  
観測部気象衛星課